第3回　日本高校生パーラメンタリーディベート連盟杯

High School Parliamentary Debate Union Competition 2014

報告書

2014年4月

日本高校生 パーラメンタリーディベート連盟

High School Parliamentary Debate Union of Japan

2014年　第3回日本高校生パーラメンタリーディベート連盟杯　報告書

１．　大会主旨……１（ページ）

２．　大会概要……1

３．　タイムテーブル……１

４．　試合形式……２

５．　評価方法……３

６．　参加高校　（２１高校　３９チーム）……４

７．　予選大会　対戦と結果……４

８．　決勝大会　対戦と結果……６

９．　議題　(Motions)……　６

１０．ジャッジと大会協力者……7

１１．賞品……7

１２．ご協力頂いた組織……8

１３．来場者と参加者数……8

１４．2014年HPDU連盟杯運営委員……8

１５．予選大会アンケート集計結果……１０

１６．総評……１３

第３回 HPDU 杯

受付・メンバー登録

開会式直前

M.C.

日本英語検定協会　木村常務理事

日本英語交流連盟　沼田会長

HPDU　西崎理事

Motion　発表直前

Debate　開始

Point of Information！

息詰まる攻防

I beg to propose.

審判打ち合わせ

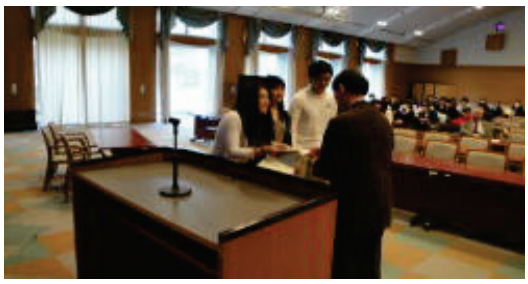
On this point!　　Later!!

Semi Final

優勝決定戦直前

両ティーム　プレパレーション開始

解説　綾部先生



優勝　ICU 高校

準優勝　渋谷教育学園渋谷高校 A

第 3 位　宇都宮高校 A

第 3 位 宇都宮高校 B

閉会宣言

健闘を讃えて

ICU 高校

渋谷教育学園渋谷高校 A

１．　大会主旨

パーラメンタリーディベートの試合を通して、高校生の総合的英語運用能力を伸ばし時事問題への関心、理解を深め、参加者の交流を図る。

２．　大会概要

日時　予選大会　2014 年3 月21 日（金・祝）9:00～17:00
　　決戦大会　　22 日（土）9:00～16:00

場所　国立オリンピック記念青少年総合センター
　　東京都渋谷区代々木神園町3番1号

内容　World School Debate Championship(WSDC) Style（但し本大会用に修正を加えたもの）による英語ディベート大会

- １チーム３名、予選３試合(２、３試合目はパワーペアリング)
- 各チームの勝ち数と得点ポイントで、上位８チームを決め、決勝トーナメントを行う
- 参加資格は高校生(留学生、帰国生徒、外国籍の生徒も含む)
- 原則として同一校のチーム
- 参加費　１チームにつき4000 円(登録チーム確定後に振込)
- 受付期間　　2014 年１月14 日(水) ～ 2 月3 日(月)

３．　大会タイムテーブル

第１日目（予選）

9:00	受付
9:30	開会式
10:00	第 1 試合の対戦表・論題発表（準備時間 20 分）
10:20	第 1 試合開始　（試合後ジャッジによる説明）
11:30	昼食
13:00	第 2 試合の対戦表・論題発表（準備時間 20 分）
13:20	第 2 試合開始　（試合後ジャッジによる説明）
15:00	第 3 試合の対戦表・論題発表（準備時間 20 分）
15:20	第 3 試合開始（試合後ジャッジによる説明はなし）

16:30	決勝トーナメント進出チーム発表

第２日目（決勝トーナメント）

9:00	受付
9:20	準々決勝　対戦表・論題発表　（準備時間 25 分）
9:45	準々決勝　試合開始
11:00	準決勝　対戦表・論題発表 (準備時間 25 分)
11:25	準決勝　試合開始
12:10	昼食
13:35	決勝　対戦表・論題発表　（準備時間 25 分）
14:00	決勝　試合開始
15:00	閉会式　表彰

４．　試合形式

[対戦組み合わせについて]

第1 試合の対戦組み合わせは事前にランダムで決めた。予選2 試合目、3 試合目はパワーペアリングによって決めた。予選3 試合の勝敗数、そして勝敗数が同じチーム間ではスピーカーズ・スコアの総得点で、予選の順位を決定した。上位8 チームが決勝トーナメントに進出し、準々決勝では予選の成績が良かった順に1～8 の番号を振り、以下の通りで対戦を行った。

[準々決勝A] team 1 対 team 8 [準々決勝B] team 2 対 team 7

[準々決勝 C] team 3 対 team 6 [準々決勝 D] team 4 対 team 5

[試合開始前の準備時間について]

論題は、予選では試合開始の20 分前に発表された。論題発表後以降は、ディベーターはチームメイト以外の人との相談は禁止された（顧問との相談も禁止）。

決勝トーナメントでは、準備時間は25 分とした。高価な道具を用意できたかどうかによって勝敗が左右されることがないように、論題発表以降は、ストップウオッチ、電子辞書専用機を除いた電子機器の使用は禁止した。

【スピーチの順番および時間（予選試合）】

準備時間20 分

1) 1st Affirmative Speaker (5 分)

2) 1st Negative Speaker (5 分)

3) 2nd Affirmative Speaker (5 分)

4) 2nd Negative Speaker (5 分)
5) Government Whip (5 分)
6) Opposition Whip (5 分)
7) Opposition Reply (4 分)
8) Government Reply (4 分)

*決勝ラウンドのみConstructive Speech は各7 分であった。

予選試合では、最初の6 つのスピーチ(Constructive Speech)は各5 分間、そしてReply speech は4 分間であった。各Constructive Speech の最初と最後の30 秒間を除いた時間では、対戦相手のチームはPoint of Information (質問、反論、コメント) を行うことができ、Point of Information がスピーカーから許可された場合、最長で15 秒話すことができる。
Reply Speech は、チームの1 人目または、2 人目のスピーカーのいずれかが行い、Whip Speaker がReply speech を行うことはできない。

[スピーカーの役割]

・各チーム最初の2 人のスピーカーは、それぞれ肯定または否定側の議論を示し、また相手チームの議論に最低限の反論をする。
・3 人目のWhip speaker は、主に相手チームの議論への反論、そして反論された内容を受けての議論の立て直しを行う。
・Reply Speech では、どうして自分たちのチームがその試合で勝利したのか、いくつかの争点に絞って説明を行う。

5. 評価方法

[勝敗について]

・各試合では、勝敗と各スピーカーの個人得点が決められた。Constructive Speech では、以下の表で示すとおり、75 を基準に上下8 点の幅で各スピーチに得点が与えられ、Reply speech では、37.5 を基準に上下4 点の幅で得点が与えられた。予選第1 試合、第2 試合ではジャッジが試合終了後に口頭で試合の勝敗とその理由を説明した。

Constructive Speeches (out of 100)

Standard	Overall
Excellent	82-83
Good	79-81
Above Average	76-78
Average	75
Below Average	72-74
Poor	69-71
Extremely Poor	67-68

Reply Speeches (out of 50)

Standard	Overall
Excellent	41 – 41.5
Good	39.5 – 40.5
Above Average	38 – 39
Average	37.5
Below Average	36 – 37
Poor	34.5 – 35.5
Extremely Poor	33.5 – 34

６．　参加高校　（２１高校　３９チーム、１シャドーチーム）

茨城県立竹園高校、栄光学園高校、大妻嵐山高校、学習院高校、京都市立西京高校、慶應義塾湘南藤沢高校、国際基督教大学高校、さいたま市立浦和高校、埼玉県立伊奈学園総合高校、埼玉県立大宮高校、埼玉県立久喜北陽高校、渋谷教育学園渋谷高校、成蹊高校、千葉国際高校、千代田女学園高校、東京学芸大学付属国際中等教育学校、東京学芸大学付属高等学校、栃木県立宇都宮高校、栃木県立宇都宮女子高校、栃木県立宇都宮東高校、山口県立大津緑高校（50 音順）― 以上 21 校

７．　予選大会　対戦と結果

〇-win　X-loss

Round 1

Takezono B	〇	―	×	Gakusyuin		Kyoto Saikyo A	〇	―	×	Inagakuen C
Keio SFC B	〇	―	×	Chiba Kokusai A		Utsunomiya Girls' C	×	―	〇	Ohtsu R.Y.
Inagakuen A	〇	―	×	Utsunomiya B		Otsuma	×	―	〇	Eiko A
ICUHS A	×	―	〇	Seikei		Municipal Urawa B	〇	―	×	ICUHS B
Utsunomiya Higashi C	〇	―	×	Utsunomiya Girls' B		Gakugei University	×	―	〇	Utsunomiya Higashi B
Municipal Urawa A	〇	―	×	Inagakuen B		Chiba Kokusai B	×	―	〇	Shibuya A
Kyoto Saikyo B	〇	―	×	Eiko B		Chiyoda Girls'	×	―	〇	Gakugei Kokusai
Utsunomiya A	〇	―	×	Keio SFC A		ICUHS C	〇	―	×	Utsunomiya Girls' A
Takezono A	〇	―	×	Kuki Hokuyo		Shadow	×	―	〇	Keio SFC C
Shibuya B	×	―	〇	Utsunomiya Higashi A		Municipal Urawa C	×	―	〇	Utsunomiya C

Round 2

Gakugei Kokusai	〇	―	×	Takezono B		ICUHS B	〇	―	×	Kyoto Saikyo B
Eiko A	×	―	〇	Takezono A		Inagakuen B	〇	―	×	Gakugei University
Keio SFC C	×	―	〇	Municipal Urawa A		Inagakuen C	〇	―	×	Chiba Kokusai B
Seikei	×	―	〇	Keio SFC B		Gakusyuin	×	―	〇	Municipal Urawa C
Utsunomiya Higashi B	×	―	〇	ICUHS C		Eiko B	〇	―	×	Shadow
Utsunomiya C	×	―	〇	Kyoto Saikyo A		Utsunomiya Girls' A	〇	―	×	Chiyoda Girls'
Shibuya A	〇	―	×	Municipal Urawa B		Utsunomiya Girls' B	×	―	〇	Otsuma
Utsunomiya Higashi A	×	―	〇	Utsunomiya A		Utsunomiya B	〇	―	×	ICUHS A
Ohtsu R.Y.	×	―	〇	Utsunomiya Higashi C		Keio SFC A	×	―	〇	Utsunomiya Girls' C
Kuki Hokuyo	×	―	〇	Inagakuen A		Chiba Kokusai A	×	―	〇	Shibuya B

Round 3

Gakugei Kokusai	○	—	×	Utsunomiya Higashi C		Kyoto Saikyo B	○	—	×	Ohtsu R.Y.
Municipal Urawa A	×	—	○	Takezono A		Utsunomiya B	○	—	×	ICUHS B
Utsunomiya A	○	—	×	Keio SFC B		Utsunomiya C	○	—	×	Keio SFC C
Shibuya A	○	—	×	Inagakuen A		Inagakuen B	○	—	×	Municipal Urawa C
ICUHS C	○	—	×	Kyoto Saikyo A		Utsunomiya Girls' C	○	—	×	Otsuma
Utsunomiya Higashi A	×	—	○	Seikei		Keio SFC A	○	—	×	Gakugei University
Eiko A	×	—	○	Utsunomiya Girls' A		ICUHS A	○	—	×	Chiba Kokusai B
Municipal Urawa B	○	—	×	Takezono B		Chiba Kokusai A	○	—	×	Kuki Hokuyo
Inagakuen C	×	—	○	Utsunomiya Higashi B		Chiyoda Girls'	×	—	○	Shadow
Shibuya B	○	—	×	Eiko B		Utsunomiya Girls' B	×	—	○	Gakusyuin

予選順位結果

		R1	R2	R3	Wins	Total Point
1	Gakugei University Kokusai	1	1	1	3	30826.5
2	Shibuya A	1	1	1	3	30825.5
3	Utsunomiya A	1	1	1	3	30822.5
4	ICUHS C	1	1	1	3	30817.5
5	Takezono A	1	1	1	3	30803.0
6	Municipal Urawa A	1	1	0	2	20818.0
7	Shibuya B	0	1	1	2	20814.5
8	Utsunomiya B	0	1	1	2	20813.5
9	Keio SFC B	1	1	0	2	20813.0
9	Inagakuen A	1	1	0	2	20813.0
11	Kyoto Saikyo A	1	1	0	2	20811.0
12	Municipal Urawa B	1	0	1	2	20808.5
13	Seikei	1	0	1	2	20808.0
14	Kyoto Saikyo B	1	0	1	2	20806.0
15	Utsunomiya C	1	0	1	2	20805.5
16	Utsunomiya Higashi C	1	1	0	2	20802.0
17	Utsunomiya Girls' A	0	1	1	2	20800.0
18	Inagakuen B	0	1	1	2	20796.5
19	Utsunomiya Higashi B	1	0	1	2	20793.5
20	Utsunomiya Girls' C	0	1	1	2	20791.0
21	Utsunomiya Higashi A	1	0	0	1	10822.0
22	Eiko A	1	0	0	1	10814.5
23	ICUHS B	0	1	0	1	10805.5
24	Keio SFC A	0	0	1	1	10804.0
25	Keio SFC C	1	0	0	1	10800.5
25	Eiko B	0	1	0	1	10800.5
27	Inagakuen C	0	1	0	1	10798.0
28	Chiba Kokusai A	0	0	1	1	10796.0

29	Ohtsu R.Y.	1	0	0	1	10795.0
30	Municipal Urawa C	0	1	0	1	10793.0
31	Takezono B	1	0	0	1	10792.0
31	ICUHS A	0	0	1	1	10792.0
33	Otsuma	0	1	0	1	10789.0
34	Gakusyuin	0	0	1	1	10788.5
35	Shadow	0	0	1	1	10784.5
36	Chiyoda Girls'	0	0	0	0	791.0
37	Utsunomiya Girls' B	0	0	0	0	790.0
38	Kuki　Hokuyo	0	0	0	0	763.5
39	Chiba Kokusai B	0	0	0	0	762.5
40	Gakugei University	0	0	0	0	750.5

８．決勝大会　対戦と結果

〇win　X loss

Quarter Final

Gakugei Kokusai	×	—	〇	Utsunomiya B		Municipal Urawa A	×	—	〇	Utsunomiya A
Shibuya A	〇	—	×	Shibuya B		Takezono A	×	—	〇	ICUHS C

Semi Final

Shibuya A	〇	—	×	Utsunomiya B		ICUHS C	〇	—	×	Utsunomiya A

Grand Final

Shibuya A	×	—	〇	ICUHS C

９．議題　(Motions)

(Round 1) This House believes that parents should have the right to access all accounts of their children's social networking sites.
親は子供の SNS アカウントへアクセスする権利をもつべきだ

(Round 2) This House would apply the retirement age to politicians.
政治家に定年を設ける

(Round 3) This House believes that the Tokyo Olympics venue should include the Tohoku/Fukushima area.
東京オリンピックの会場に東北・福島地域を含めるべきだ

(Quarter finals) This House would deny those who have made poor lifestyle choices and actively harmed themselves (fatty food, alcohol, smoking) the access to the national health insurance.
健康に悪い生活を選択し，積極的に自分を傷つけることをした（ジャンクフードや飲酒、喫煙）者の、国民健康保険適用を拒否する

(Semi finals) This House believes that research institutions that actively employ female scientists should be given more research funding by the government.
女性の研究者を積極的に雇用した研究機関は、政府からもっと補助金を得るべきである。

(Grand final) This House believes that Japan should not impose any sanctions on Russia regarding the Crimea issue.
日本はクリミア情勢に関して、いかなる制裁もロシアに与えるべきではない。

１０．ジャッジと大会協力者

１） ジャッジ（審査員）

予選大会では各ディベートに対し１人のジャッジが審査を行い、予選第 1 試合、第 2 試合ではジャッジが試合終了後に口頭で試合の勝敗とその理由を説明した。準々決勝では各ディベート５人、準決勝では７人、決勝では 11 人のジャッジが審査を行った。

ジャッジはパーラメンタリーディベートの大会出場経験豊富な大学生にお願いした。

２） 高校教員と大学生ボランティア

大会当日は役員の教員、引率教員そして多くの大学生ボランティアが大会運営をサポートしてくれた。

１１．賞品

・優勝、準優勝（１位、２位）：賞状、HPDU 連盟杯トロフィー、図書券(五千円)、英検賞（QUO カード）

・３位～８位：賞状

・ベストスピーカー賞　：賞状、ECC ジュニアー賞（記念品）

１２．ご協賛とご協力を頂いた組織

HPDU は３月に HPDU 連盟杯、６月に新緑杯の２回の大会を行っている。二つの大会を公益財団法人日本英語検定協会と一般社団法人日本英語交流連盟に後援および協賛をして頂いている。また、HPDU 連盟杯は ECC ジュニアーの協力を頂いている。

１３．来場者と参加者数

予選大会：参加ディベーター数： 120 人
　　ジャッジ：25 人
　　来場者数：約 60 人
決勝大会：参加ディベーター数：24 人
　　ジャッジ：20 人
　　来場者数：約 160 人

１４．2014年HPDU連盟杯運営委員会

＜連盟杯委員長＞

北原隆志	渋谷教育学園渋谷高等学校　教諭

＜運営理事＞

小林　良裕	豊島岡女子学園高等学校　教諭
浜野　清澄	さいたま市立浦和高等学校　教諭
西崎　真広	明法学院中学高等学校　教諭
尾花　美代子	埼玉県立伊奈学園総合高等学校　教諭
山本　記洋子	国際学院高等学校　教諭
畠山　和	埼玉県立久喜北陽高等学校　教諭
天海　揚介	青山学院大学　（大学生）

＜大会役員＞

丹田　博	埼玉県立朝霞西高等学校 教諭
宇佐美　修	栄光学園高等学校　教諭
野城　充	栃木県立宇都宮女子高等学校　教諭
辻　香織	埼玉県立伊奈学園総合高等学校　教諭
梅山　真梨子	大妻嵐山高等学校　教諭

＜学生・OBOG＞

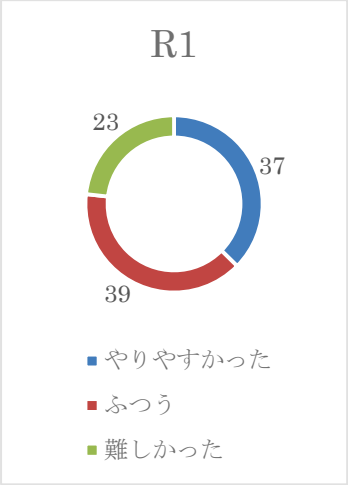
岩崎 咲穂	法政大学　（学生）
橋本　彩寧	東京外国語大学（学生）
岡村　菜摘	青山学院大学　（学生）
増岡　静香	学習院大学　（学生）
伊与田　諒	学芸大学大学院　（大学院生）

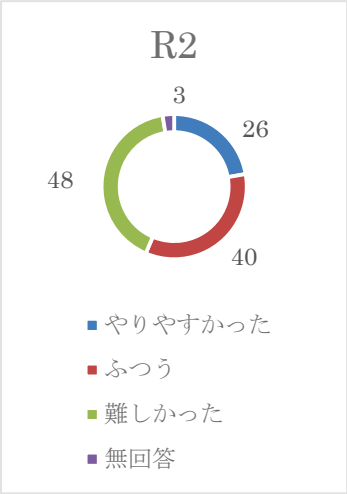
高久　結花　　学習院大学　（OG）
久田　淑怜　　学習院大学　（OG）

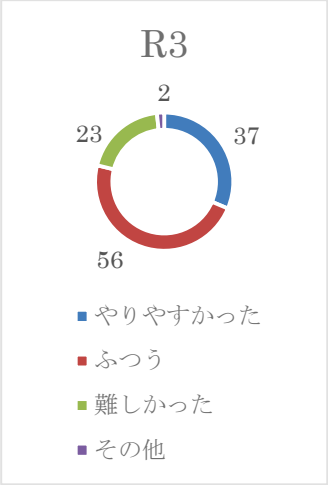
＜顧問＞
岡田　真樹子　　一般社団法人　日本英語交流連盟（ESUJ）常務理事
綾部功　　東海大学准教授

１５．予選大会アンケート集計結果（回収 118 人、回収率 98%）

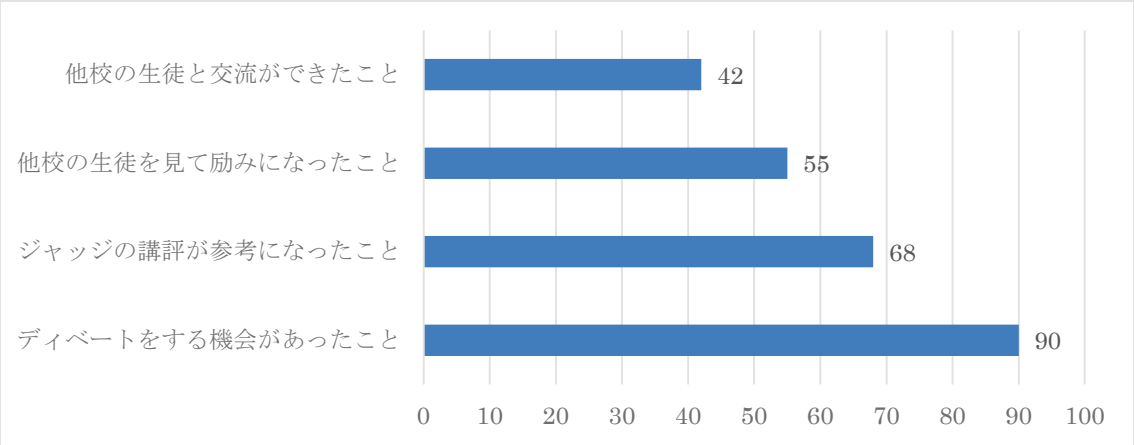
１．予選試合の論題はどうでしたか







２．この大会でよかったこと（複数回答あり）

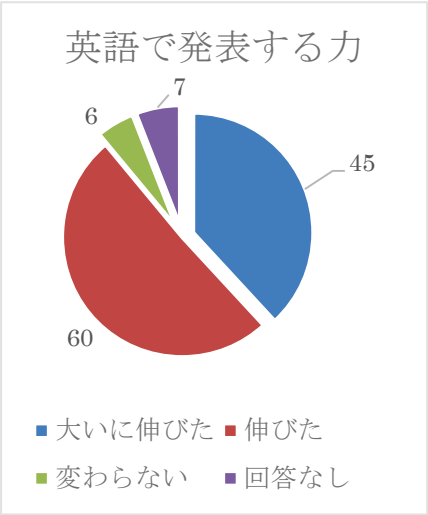


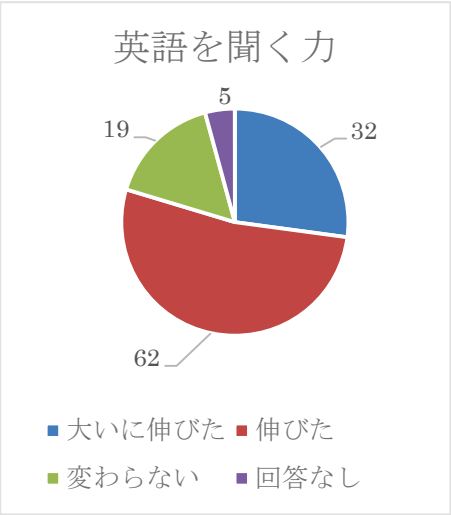
その他

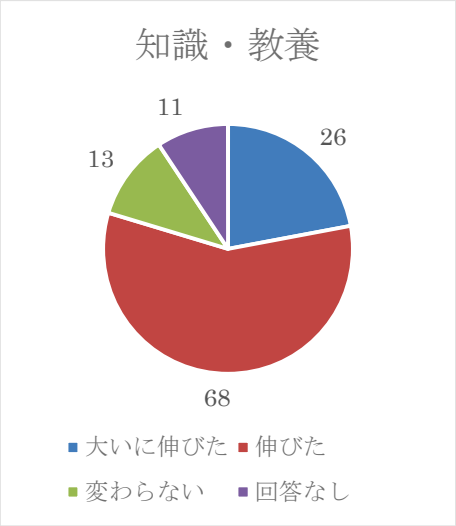
・かけがえのないものに気付いた
・自分の Reply スピーチが成長したこと
・初パーラメンタリーだったので雰囲気を知れたこと
・シャドーのような位置で出させてもらって、とても楽しかった
・ディベートを通して社会問題について考えることができたこと
・shadow で他校の生徒さんとチームを組んでできたこと
・自分の英語の向上

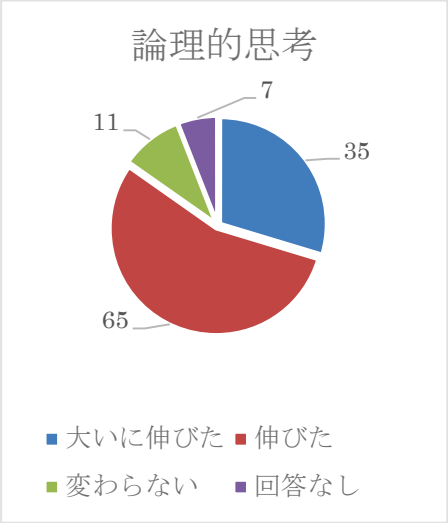
・難しい論題に触れられたこと
・もっとジャッジコメントしてもらいたかった

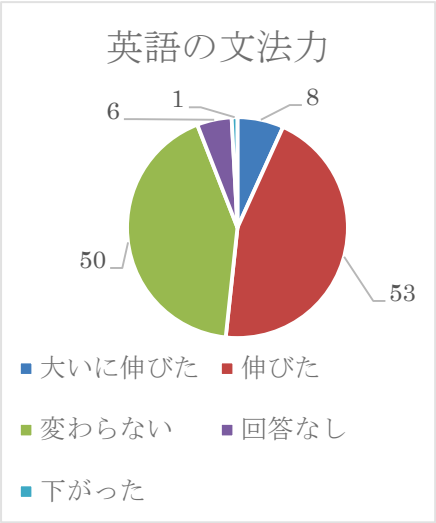
3．Parliamentary Debate をとして、どのような力が伸びたと思うか（回答者 118 人）

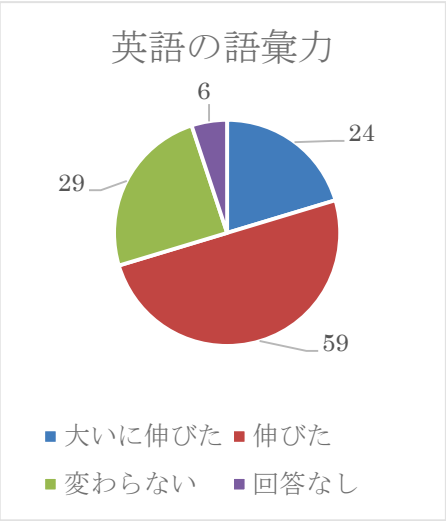




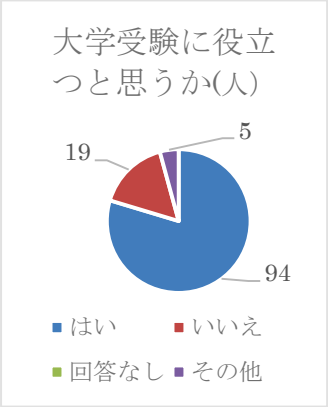


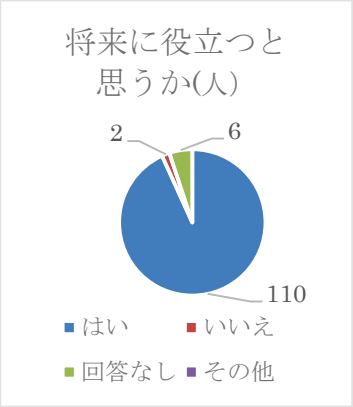


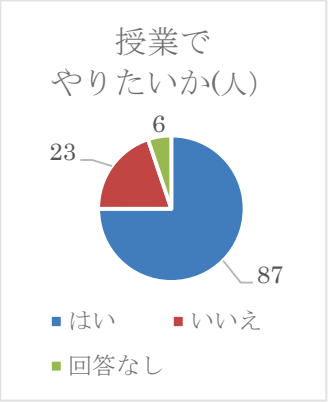




4．Parliamentary Debate について







（2 人：すでに授業で行っている）

5．その他　自由記述

・1Round 目で負けて精神爽快。でも自分がんばってた
・3 試合とも楽しめて良かったです:)
・ICU HIGH SCHOOL C：more judges! More time after round debate, longer advice reflection の時間をもっととってほしかったです
・Shadow チームというディベートをする機会をくださりありがとうございました
・Shadow チームを作っていただきありがとうございました
・とても良い経験ができました

・これからもディベート続けてください
・ジャッジが１人というのが少し公平感に欠けるかなと思いました
・ずっごく楽しむことができました。ありがとうございました
・とても勉強になりました。ありがとうございました
・なかなかできない体験ができました
・何と言っても楽しかったです
・楽しかった(その他３人)
・公平なジャッジのために３人以上のジャッジがいたほうが良いと思いました
・移動時間が長く取られて準備が大変になってしまったので、ディベート会場で準備がしたかったです
・今までディベートが出来なくて、悔しさを通り越して絶望していましたが今日は「もっとこう言えばよかった」とか「もっと言いたかった」などと思えました。運営、スタッフの方、有難うございました
・初めての Parliamentary の大会でしたが、たくさん学ぶことができました。ありがとうございました
・食べ物、飲み物、お菓子を食べたい。おなかがすきました
・エレベーターを使わせてくれないという physical abuse をうけました
・他校の方からたくさんの刺激を受けて、とても良かったです
・大会ではなくてもこのよう chance があればうれしいです

１６．総評

本大会審査について

年々レベルが上がっており、今年も昨年と比べてさらに上がっている印象を受けた。Motion が大学生の大会に出るレベルのものもあったが、大学生の大会で期待される内容の議論が出されたり、情報や分析が行われたり、うまい戦略を立てて議論するという試合があった。英語のプレゼンテーションや、議論の組み立て方は、大学生の大会のラウンドで見るものと遜色ない（初心者の大会であればそれを上回る）もの見受けられた。ただし、まだ相手の議論に的確に engage して respond することや、whip speech で両チームの争点（clash point）の処理を適切にする点で改善の余地があるようだ。具体的には、（１）単に自分たちの議論の繰り返しのみ（２）相手の議論を適切に捉えないで反論する（場合によっては言っていないことに対して反論する（straw man attack））（３）前のスピーカーが行った反論の繰り返しのみ、といった場合がまだ多い。練習を積んで、適切なフィードバックをもらって改善するようにすれば、さらなるレベルアップにつながると考えられる。もっとも、地域格差の拡大がさらに進み、パーラメンタリーディベートの全体の広がりを妨げることになりかねない。それ

には全国レベルでの指導者や審判の育成が、普及のための課題であると考える。セミナーやワークショップの開催、オンライン上での情報や資料の提供によって、リソースの共有を促進することが重要である。

【決勝戦について】

接戦で１票差でのチャンピオン決定となった。すべてのジャッジの意見を聞いた訳ではないので、他の見方の可能であったことを先に述べておく。印象としては GOV が証明義務をうまく移し、OPP が証明できていないことによってロシアに対する制裁措置に正統性がないというように見せ、巧みにまとめた印象があった。主な争点は（１）制裁措置に正統性(ロシアの問題点)があるかどうか（２）日本が制裁措置を行う義務があるかどうが（３）日本が制裁措置を行うことによる practical benefit／harm があるのかどうか、等である。

先に（２）に触れておくと、日本が G8 のメンバーであることや日本アメリカやヨーロッパとの関係で制裁措置を行う義務があるかどうかとのことであった。これについては、G8（ロシアを除く）や欧米との関係の重要性が議論されたが、そもそもどんな制裁措置が実施されているかが言及されておらず、実際にもこの時点ではオバマ大統領が制裁措置を行うことを発表した程度である。また、GOV の「G8 のメンバーだからと言って日本がすべてに同調するのか？」と OPP に投げかけたことに対しては OPP から具体的な response はなかった。そうすると、（１）の正当性が成立するかどうかがポイントになってくると判断した。

（３）の practical benefit は制裁措置による悪影響（対欧米、対ロシアとの外交・通商関係）は、双方の分析やお互いへの response は一般論的すぎて十分とはいえず、この点でどちらが有利かを判断する材料にはし難かった。

（１）そこでロシアへの制裁措置の正当性についてだが、GOV は①ロシアに人権侵害がおこなわれているかどうか、②日本の国益に関係しているかどうかを基準にし、いずれの条件も満たさないと PM スピーチで立てていた。これに対し OPP は③国際法に違反しているかどうかを基準にたて、また、②に対しては上の（２）（３）を絡めて議論を進めていた。ディベートの流れは、②の結論は、自分では（２）（３）のような結論になったので、①と③が判断材料になると考えた。ここについて GOV は「ロシアのどの行為が国際法違反なのか？」と DPM で OPP に burden of proof を課し、これに対しては結局、「クリミアの住民投票でロシア加盟という結果が出た」という事実はあり、ロシア系住民が対数を占めている）という事実はあるものの、OPP はロシアのどの行為が国際法違反なのかについては、DLO 以降具体的に述べていない（whip での「rogue nation だ」と述べているぐらいで具体的な違反行為は「述べられていない」）と判断した。日本のチャイナタウンでの住民投票の例は面白いアプローチだったが、それがあったとしてもなぜ中国に対する制裁措置になるのかの理由は不明だった

ので、その説明なしに例自体をサポートとは考えられなかった。

全体的にみると、GOV の「日本がロシアに制裁措置を課すことかが不当で、避けることが日本にとって利益である」という点は深められたという感じではなかったのだが、試合でロシアのどの行為が問題なのか明らかにされない限りは、制裁を正当化することはできないということで、自分は GOV に vote することにした。しかしながら、OPP の反論は少なかったものの、GOV が自分たちの論点を十分深めているとは言えず（つまり「ロシアの行為が人権侵害に当たらない」、「まだはっきりしていない」程度で、確かにこの時点では現実的にそうなのだが)、そのため OPP の議論を相対的に高く評価し、OPP に vote することもできる。その結果 6 対 5 という僅差という結果になったといえよう。

HPDU 顧問　綾部功　東海大学准教授　記

本大会の教育的意義について

本大会の開催主旨は「パーラメンタリーディベートの試合を通じて、高校生の総合的な英語運用能力を伸ばし、時事問題への関心、理解を深め、参加交流を図る」ことである。本大会は生徒が楽しみながら英語のディベートに挑戦し、異なる高校の生徒との交流を図り、切磋琢磨しながら英語力を伸ばす貴重な機会であったと思う。

今年は予選と決戦の計 6 試合を World School Debating Championship（世界高校生ディベート大会）の即興ディベート(impromptu debate)に準拠したパーラメンタリーディベートのフォーマットで行った。論題（Motion)と賛成側・反対側のどちらの立場に立つかはディベート開始の２０分（決勝は２５分）前に発表され、ディベーターは英語力、学力、常識、教養、日頃の読書、そして時事問題への関心が試された。

ディベートでは英語の総合的な力だけでなく、「考える力」つまり論題の解釈と出題意図の理解、チームスタンスの決定とチーム間の情報共有、論点と根拠の設定、チーム間の役割分担および連携と協力、反論の推測、適格な反論、争点の理解と分析、説得力など様々な能力が求められる。高校生にとっては英語でのディベートは相当難しいと言える。しかし、近年パーラメンタリーディベートに挑戦する高校生が増えている。これは生徒にとってディベートが体験型の現実的な学習方法であり、ディベートで求められるスキルが将来役に立つと実感できるからである。即興性が求められるパーラメンタリーディベートは事前に準備してきたスピーチを読み上げるのではなく、自分で考え、主体的にそして積極的に英語で討論する努力をしなければならないのである。生徒はディベートを行う度にもっと「英語力を伸ばそう」、「時事問題に関心を持とう」と言う気持ちになるのでしょう。ディベートを通じて生徒は、スピーチ、ディスカッション、プレゼンテーション、質疑応答などの総合的な「話し方とコミュニケーション能力」を鍛え、さらに知的好奇心、知的懐

疑心、論理的思考力などのクリティカルシンキングスキルをも習得していくのである。

本大会に参加した生徒(118 人が回答)のアンケート結果を見ると、パーラメンタリーディベートに対する非常にポジティブな回答が多かった。80%以上の生徒が「知識と教養」、「英語表現力」、「英語を聞く力」、「論理的思考力」が伸びたと感じている。また、「大学受験に役立つ」と考える生徒は 80%、「将来役立つ」と考える生徒は 93%であった。これらの値は生徒が感じたことで、実際の英語力等の向上を示す値ではないが、生徒の英語学習に対する意欲と積極性を表す数値といえる。パーラメンタリーディベートは生徒の英語の学習に対する意欲を向上させ、英語力とクリティカルシンキングスキルを鍛える有効な学習方法の一つであることを示しているといえる。ディベートを行うことにより生徒が主体的に楽しくゲーム感覚で学ぶシチュエーションを作ることができ、授業では教え難い英語で「話す」、「聞く」、「質問する」、「答える」練習をアクティブに行うことができる。日本では英語の授業に取り入れている学校はまだ少ないが、今後は教員対象のセミナーや高校生対象の体験授業を広く行うことによって全国の高校に広めたいと HPDU は願っている。

最後にこの度の大会を全面的に援助してくださり、国立オリンピック記念青少年総合センターでの開催を可能にしてくださった公益財団法人日本英語検定協会と協力をしてくださった ECC ジュニアーに厚く御礼申し上げます。また、大会当日ご尽力頂いた多くの先生方と大学生に感謝申し上げます。

HPDU 顧問　岡田真樹子　記
（一般社団法人　日本英語交流連盟常務理事、ディベート委員長）

以上